

## 特集

# 『祈り』

代表あいさつ

### 「いま日本は祈りのムーブメントを必要としている！」

日本ペンテコステ協議会

議長 細井 眞



すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず自分をさましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。

エペソ6章18節

大震災から二年が過ぎましたが、復興は遅々として進まず、多くの方々はまだ仮の家に住み、先行きに不安を抱えたまま日々を過ごしています。しかし、日本の霊的な状況は被災地の状況とは裏腹に、豊かな実りの季節となり、収穫を待つばかりになっています。

主は、これから十年の間に日本を大きく変えられます。私たちはこのチャンスを真正面から捉えて、私たちのなすべき業をしていかなければなりません。

第一に、祈りのムーブメントを起こしていただきます。

主は私たちに祈りの祭壇を再建することを望んでおられます。まず、異言の祈りをもう一度燃え立たせましょう。親密な聖霊さまとの交わりに、さらに多くの時間を捧げましょう。断食の祈りを日課として行いましょう。しるしと奇跡を伴う祈りを信仰をもって始めましょう。互いに愛をもって、励まし合い、祈り合いつつ前進しましょう。

第二に、ハーベスト・ムーブメントを起こしていただきます。

個教会は受け入れ態勢を整える必要があると考えます。セル化がカギを握っていると思いますが、個教会が主からの知恵と知識を頂いて、独自の組織化を図る必要があると思います。しかし、大切なことはマイチャーチ主義で行うのではなく、教団教派を越えて一致し、協力して、神さまの愛を拡散し、みことばを語り、収穫していくことです。

これらの祈りのムーブメント、ハーベスト・ムーブメントは、一つ一つが単発で終わるのではなく、繋げられていく必要があります。点で行われるだけでなく、広がっていく必要があります。正に、ムーブメントになっていくって欲しいと思います。

今、主が天の窓を開いておられるので、信仰をもって前進し、神の御国のムーブメントに加わっていきましょう。

---

## 祈り



日本フォースクエア福音教団  
総理 増井義明

今、日本に対して主が祈りに対する強い思いを与られていると確信します。その祈りは日本を動かし、イエス・キリストの愛を人々に届ける原動力となり、日本人に福音を伝える知恵、言葉、そして勇気を与えるものと信じます。

日本フォースクエア福音教団の大きな特色のひとつは、日本人を始めブラジル、アメリカ、イギリス、韓国、インドネシア、フィリピンとグローバルな教職のメンバーがいることです。この多国籍の教団に一致を与えているひとつの要因は、祈りにあると信じています。言語や文化、また礼拝スタイルの違いにより、時にはすれ違いや誤解が生じることはありますが、お互いのために、そして日本の救いのために祈る時、全ての壁を超えた一致がそこに与えられてきました。

当教団の祈りの取り組みとして、過去の教団大会時に全ての教師と参加した信徒でチームを作り、東京・浅草の街で「祈りの歩行」を行いました。日本の霊的状況を象徴する場所においてキリストの血潮によって約束された勝利を宣言し、主の祝福がそこに訪れることを信じ、心一つにして祈りました。また現在毎年4月4日を「教団とりなしの日」とし、日本のリバイバルのため、そして北は北海道から南は沖縄に置かれている約40の教団教会の教職者、信徒、各教会の必要を覚え祈っています。教団大会の日程の中で女性ミニストリーが持たれ、信徒と女性教職者が参加し、交わり、賜物を分かち合い、祈りを深めてフォースクエアの女性クリスチャンを立て上げる働きをしています。その働きのひとつとして、One Heart というニュースレターを発行し、各教区（北部、関東、関西、中部、南部）の活動や証しを載せ、またその中で各教区からの祈りの課題があげられて毎月4日の「女性ミニストリーとりなしの祈り」の日に祈っています。

2011年の東日本大震災直後からは、毎日午後3時に災害支援の祈りの時を持っています。教団の牧師はアラームをセットし3時になると、被災地の復興、被災者の心の癒し、東北地域における教会開拓とリバイバルのためにとりなしています。特に教団として行われている4箇所での支援活動と、そこで奉仕しているメンバーを覚えて祈っています。長い祈りではありませんが、この災害支援の祈りをするにより、私たちの思いは日々被災地に向けられ神様の働きが起こされていくと確信が与えられています。更に世界130か国にある海外のフォースクエア教会を通して送られてくる災害、迫害に関するニュースにとりなしの祈りをもって応えています。

フォースクエア教団としては祈りの重要さを強調しつつ、律法的にならないことに心がけています。祈りは信仰生活で必要不可欠ですが、いつの間にか祈ることが目的になってしまうことがあります。結果、人々の会話や証しが神様の素晴らしさだけでなく、どれだけ祈ったか、どれだけ多くの人が

集まったかなどという目に見えることに向かい、人の行動が霊的な基準になりかねないからです。そしてそこに、祈れない時には自らを裁き、祈りの少ない人をも裁いてしまうという可能性があることは否めません。ですから私たちは、「祈りの力は、祈る者に頼らず、祈りを聞く者にある。」という言葉を覚え、主の導きに示される祈りを進めているのです。

最後に私たちクリスチャンに与えられている一番の戒めである、「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」、そして「行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。」という大宣教命令は、祈りと実践によって進められていくと信じています。日本フォースクエア福音教団は、祈り、みことば、賛美、交わりのバランスを保ちつつ、更に深い祈りを通して主の偉大な働きを担う教団として前進して行きたいと願っています。



▲ 日本フォースクエア福音教団大会

## 一地方教会の祈りのプラン

シオン宣教団  
監督 松本 光弘



### 1. 執り成しチーム

私たちの教会では、教職者に対し、また信徒間相互の執り成しを強化するため、4年前から執り成しチームを組織いたしました。チームのメンバーは現在15名ですが、毎日教職者のために祈ること、特別な祈りの要請があるときは集中祈禱をするという内容です。特に、教職者の霊的支援のための祈りは最も大切なものと位置づけています。教会としての一体感が日々築かれていることを実感しています。また、信徒間のさまざまな出来事については、当人の了解のもと、メールで一斉に執り成しの依頼をします。初めは突然送られてくる緊急課題に当惑する兄弟もおられました。今ではいつ祈りの要請があっても各自それぞれの場所と方法で祈ることを喜びとしています。

### 2. 同刻祈禱

私たちの教会では、週日の祈禱会(バイブル・プレイ & フェローシップ)は火曜日の夜、婦人集会(オープンレディーズ)は木曜日の午前中です。それぞれ集会の中でしっかりと祈ることを心がけています。島根県は東西に長く、教会メンバーの多くは車で一時間ほどのところから来られている関係で、週日皆

そろって教会堂で祈るということが難しいのです。そこで、時間を定めて毎日祈り合う同刻祈禱を推進しています。朝6時30分、夜10時です。

### 3. ハイナイト(いのちの夜の意)キックオフ

今年2月から、イスラエルの平和を祈るハイナイト(祈り会)を始めました。教会の一人の姉妹が既に一人で祈っておられたのですが、牧師や献身者がイスラエルに行く機会が与えられたことで、具体的に教会として祈り会が始まりました。クリスチャンとなった時からイスラエルに大きな関心がありましたが、具体的に彼らの為に祈るということがありませんでした。というより、その必要性に気が付いていなかったのです。大阪からスタッフに来て頂いて、一晩お話しを聴く中で参加者の目が開かれ、これまでの不信仰を悔い改めました。

### 4. 地域の教会間での祈り会

これは、主に近隣の牧師の先生方との祈りのプログラムです。地方の教会ではペンテコステの信仰のある教会とだけお付き合いするというわけにはいきません。限られているからです。同じ地域に遣わされている者として、共に街々のため・諸教会のため祈らせて頂いています。

私の住んでいる松江市では朝の早天を共に祈らせて頂いています。また、車で約一時間離れた隣町米子市でも別の先生方と深夜、山陰リバイバル祈禱会と称して祈らせて頂いています。

この終わりの時代、とても地味な務めではありますが、最も大切なこの祈りという、主との絶えざるひと時を教会員とともに大切にしていきたいと思えます。



▲ 2012年夏期聖会(琵琶湖にて)

## 祈り

日本オープンバイブル教団  
代表 菅原 亘



祈りは神様との身近な関係を具体的に証明し、人の呼吸のように絶えることのできない霊的生命に関わることからであり、信仰生活の上で最も大切な行為です。しかし、私たちが祈りの行為を偶像化してはなりません。何時間祈っていること自体が評価されることがあってはいけません。奥まった部屋で祈りなさいとイエス様は言われました。祈りは人に見せびらかすものではないのです。そうでないとせっかくの祈りの行為がパリサイ人になることもありますので注意しましょう。信仰による祈りこそ大切であります。謙虚な心で忍耐深く諦めることなく求めることが基本です。静まった部屋でひとり祈ること、また、

グループや集会場で祈ること、時には断食して祈ること、仕事をしながら祈ること、車の運転をしながら祈ること、家事をしながら祈ること、すべての祈りは全能者の耳に届いているのです。後は忍耐を持って信頼して神様からの具体的な応答を待ち望むことです。

日本オープンバイブル教団の兵庫県明石市にあります大久保ホーリーチャペルは開拓2年半目の20名前後の群れですが、朝の祈禱会を朝5時から月～土で持っていたのですが、昨年2012年11月頃からは信徒の提案により年中無休毎朝5時からの早天祈禱会がもたれるようになりました。会堂に出る人がアイホンで祈禱会の様子を友人に送信しています。一人につき5人が受信可能なのですが、現在は各家々で受信して共に早天祈禱会に参加しているのです。合計毎朝30人ほどが早天祈禱会を持っていることとなりました。



神戸キリスト栄光教会の開拓教会ですが、親教会よりも大勢の方が早天祈禱会に参加していることとなっています。その結果だと考えているのですが、今年神戸の教会では毎週ごとに洗礼者が起こされています。例年よりも早いスピードで驚きと感謝の思いです。毎週洗礼式があるので信徒の方々も勇気が与えられています。しかも、教会に来て間もないのに洗礼を決心するのです。

そこで私はつぎのように考えています。これは聖書の標準スピードであると。

聖書のスピードは、今日初めて福音を聞いて、その場でイエス様を受け入れ、その日の内に洗礼へ導かれ、その時に聖霊の満たしを体験する。ハレルヤ！

何年間も求道中ということも日本では珍しいことではありません。

しかし、これからは日本でもスピードアップした教会成長がなされるでしょう。信仰による祈りが個人を変え、教会を変え、地域を変え、日本を変えて行くのだと思います。日本の教会も必ず変わって行くのです。もちろん良い方向に！

## ■エンパワード21全日本大会に期待する

日本オープンバイブル教団  
代表 菅原 亘

エンパワード21全日本大会が10月11日～14日にかけて京都国際会議場で開かれますが、この大会は単にひとつのイベントのようなものでなくてザビエル以来の歴史的宣教拡大のきっかけとなる特別な意味を持った「日本が変わる」大会です。そのために5月9日～18日までのペンテコステ前日まで10日間の全国一斉救国断食祈禱を呼びかけています。救国のための断食祈禱であります。聖書の中には救国のために断食して祈った例が数多くあります。

日本のキリスト教界の現実には後がない厳しいものがあります。手をこまねいては終わりであります。すべての世代が立ち上がり祈りの手を挙げなければなりません。9月12日～14日の3日間は贖罪日(ヨム・キプール)に合わせてもう一度全国一斉救国断食祈禱を呼びかけます。また、全国500教会が決起祈禱会を開催し、日本の救いのために祈ることも期待しています。

そのような祈りの熱い思いが10月京都に集結し、爆発的な聖霊による使徒行伝時代の宣教の拡大が始まるのです。また、10月13日の聖日礼拝を京都の会場で主だった牧師先生たちが海外の参加者たちも含めて一緒に礼拝を持つのです。

このようなことは初めての試みとなるかも知れません。それぞれ、ご自分の教会があるのですが、あえてそ

れを差し置いて、ご自分の教会はお弟子さんたちにゆだねて主任牧師は京都の会場で礼拝を持つことの意味は、日本の教会がリバイバルのために一致している姿を示すこととなります。象徴的な場面です。

日本の霊的リーダーたちがひとつになって礼拝をささげ、祈り、賛美をささげることが日本の救いの祝福のスタートです。そしてこの状況をリアルタイム（Live）で各地の教会で受信設備があれば、同時に聖日礼拝をささげることにも可能にします。信徒の方々はその様を見て「日本が本当に一致した。先生たちが本当に一致している」と喜ぶことでしょう。祈りの結集、神の器たちの結集、これが今年10月京都で起こるのです。ちょうど、このころにはNHK大河ドラマ「八重の桜」で八重と新島襄が京都で同志社を立上げる番組のころかと推測します。なんとグッドタイミングでしょうか。まさに神の時、日本の教会の時を感じます。日本最後の救いのチャンスというような思いがあります。

この日本はクリスチャンたちの本気の祈りで変わるのです。日本の救いの完成はクリスチャンたちの祈りの手の中に握られているのです。

## 収穫に向けた祈り ～ TPKF 関西地区 脈々と続く働き人祈禱会～



単立ペンテコステ教会フェローシップ  
関西地区議長京都キリスト福音教会牧師 置田 信也

「まことにあなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をついて祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。」（マタイ18：19）

教会が一致していること、同じ信仰をもつ者どうしが愛し合い一緒に行動することを、神様は喜ばれます。私たちキリスト福音教会（KFK）の教職者たちは、毎月集まり、一緒に祈る時間を持っています。

単立ペンテコステ・フェローシップ（TPKF）の中で、関西を中心とした19の教会からなるKFKはフィンランド人宣教師たちによって開拓されました。日本宣教が始まって15年後の1965年、ユッカ・ロッカ宣教師の呼びかけによって、フィンランド人宣教師と日本人教職者合同の祈禱会が始まりました。それから48年がたちましたが、この「働き人祈禱会」は止むことなく続けられてきました。

祈りの課題を分かち合うなかで話し合う時間が増え、近年は午前には祈り、午後には相談会を持つようになってきました。しかし、神様に期待して祈ることが基本です。これからも祈りを積上げていきます！



▲ 祈禱会



## 「ユースと共に祈る」

単立ペンテコステ教会フェローシップ 関東地区ユース担当  
秦野クリスチャンセンター牧師 芳三容子

ユースたちがコンスタントな祈りの生活を保つことは容易ではありません。周りの環境に流されやすかったり、誘惑が多かったり、好奇心が旺盛でいろいろな事に関心が向いてしまうからです。また、影響を受けやすい年頃で、良い刺激を受けているときは祈れるのですが、そうでない時は祈れなかったりと、アップダウンが激しいです。

ですから、なるべく交わりを持つ機会を増やし、良い刺激を受けたり、軌道修正したりできる機会を増やし、みことばと祈りの生活から離れないように努めています。彼らは、聖霊のバプテスマを受けると変わり、異言での祈りをも身につけていきます。これが祈りの生活をさらに深いものへと変えます。しかし、同時に霊の戦いも経験していきますので、主にある勝利を経験していくようにと導いています。



揺れ動くことのない土台の上にとしっかりと根付いた信仰生活の歩みをして欲しいと同時に用いられる器となって欲しい、そして、祈りつつ後輩たちを育て、継承していく者へとなって欲しいと、ユースたちとの交わりを続けています。



## 「祈りによる教会形成 一岐阜純福音教会の場合一」

単立ペンテコステ教会フェローシップ 副議長  
岐阜純福音教会牧師 小山大三

カナンの地に入ったアブラムは、二度にわたって祭壇を築きました。(創 12・7-8)  
これは神への感謝と献身と従順を表す全焼のいけにえをささげるためのものでした。アブラム一人だけでなく、妻やロトの家族や使用人たち、一族郎党全部が祭壇の周りに集まって主を礼拝したはずで、私たちも個人として、クリスチャンホームとして、あるいは教会として、また教団、グループとして、祭壇を築きつつ生きる必要があります。

私は毎朝早天祈祷の中で信仰の祭壇を築きます。朝ごとに神の恵みを告白し、感謝し、御言葉を引用し告白する中で、私の霊が引き上げられ整えられることを経験します。また、妻と私は毎晩寝る前に共に祈ります。名刺サイズの紙にさまざまな祈りの課題を書き入れたものを用意し、交互に祈ります。そうすることで、ひとりの1回の祈りが短くなり、テンポ良く祈ることができます。家族、教会のメンバー、友人たち、日本のリバイバルのことなどを祈っていると、あっという間に時間が経ってゆきます。



▲ 岐阜純福音教会 礼拝風景

私たちの教会では、いろいろな祈りの取り組みを試みましたが、現在続いているのは、毎週水曜日朝のスタッフの祈り会、水曜日夜の聖書の学びと祈り、木曜日の女性会の祈祷会、毎週土曜日の早天祈祷会です。その他に各部会や有志による祈りの時が持たれています。また、執り成しの祈りのために教会の中から祈りの勇士を募り、祈りのリクエストを毎月発行して手渡し、かなり詳細に各家庭で祈ってもらっています。現在20数名が祈りの勇士となっています。祈りのビジョンを失わないよう、礼拝メッセージの中でしばしば「祈り」をテーマに語ります。また、祈りをテーマにした聖会を時折開催しています。

## 仕える



日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団  
総務局長 内村 保

[1] 例年ペンテコステ祈祷旬間（ペンテコステの前10日間）を設け、日々聖霊に満たされた歩みができるように祈っています。2012年は、各教会へポスターを送り、7つの祈りの課題を掲げ共に祈りました。

- 1) 全国聖会の恵みを分かち合い、互いに励まし、助け合えるように
- 2) 新任・転任教職の油注ぎと赴任先教会の祝福のために
- 3) 被災地の支援活動に導きが与えられ、必要が満たされるように
- 4) 諸教会の絆が深まり、宣教のネットワークが推進されるように
- 5) 国内宣教献金を通して、宣教の必要が満たされるように
- 6) 神学校（本科・通信科）の学生たちの学びが祝されるように
- 7) 海外宣教師（台湾・フィリピン・米国）の守りと宣教拡大のために

[2] 祈祷聖会（於 浜名福音荘）

浜名福音荘運営委員会により、教団施設の浜名福音荘で祈祷聖会が持たれます。全国から教職・信徒が祈るために集まります。2011年は、108名、2012年は、100名の参加者でした。

[3] 2012年より3月11日を「大震災復興祈祷日」とし、特に東日本大震災の復興のためにポスターを配布して祈っています。2013年の祈祷課題は、以下のようです。

- 1) 支援を通してキリストの愛が伝えられるように
- 2) 希望の福音の種が蒔かれるように
- 3) 支援活動の継続のために必要が満たされるように
- 4) 支援活動の拠点となる教会が被災地に生まれるように
- 5) 支援ボランティアが引き続き起こされるように



[4]2012年度より祈祷推進委員が任命され、特に理事長、理事、理事会のために祈りの手を挙げています。定期的に懇談を持ち、共に祈っています。

[5] 教団では、教団教職のみが参加できる二つの Facebook のグループがあります。

「日本アッセンブリー大震災支援ネットワーク」は、3月11日の地震発生後に、地震についての情報を教団に属する教職に限定して分かち合うために「被災状況」として最初に作られました（現在のメンバー134人）。2011年7月13日、震災後4か月を経過し、現在の名称に変更し、支援のネットワークとして情報を発信し、祈り続けています。Facebookに参加していない教職者にも教団のホームページに「JAG 災害対策本部公式ブログ」として、リンクされ、英語でも情報を提供し、祈りの輪を広げています。「AG 宣教ネットワーク」も、教団に属する教職に限定し（現在のメンバー142名）、教団、教区、教会の宣教に関わる情報を提供し、共に祈り合っています。



▲ 教職研修会



## 祈りの生活への献身

イエス・キリスト福音の群  
九州教区長チャペル延岡牧師 田崎敏明

### ①祈りへの召し

良い伝道者はいる  
良い説教者もいる  
賛美する者もいる  
良い奉仕をする者もいる  
しかし  
祈る者が少ない…



いつの頃からか、私は上記の聖霊の語りかけを聞くようになりました。私自身が、祈りの不足を感じていた  
ので、その思いを通して、語りかけてくださったのでしょうか。そして、それは私自身に対して、祈りの生活へ  
の献身を促すものでした。それは時間的にも内容的にも、さらに徹底した祈りの生活への召しでした。しかし、  
私の心の中には、すぐに次のような言い訳が起きました。「私は開拓伝道をしているのです。自分であれも

---

これも全部やらなくては行けないのです。忙しいのです。」私が、教会にこもって祈ってばかりいたら、誰が伝道するのですか。」「祈っているよりも、トラクトの一枚でも配布した方が、効果的でしょう。」等々の言い訳でした。なんと、“教会”をダシにして、言い訳をしていたのです。

しかし、そんなある日です。私の心に、一つの御言葉が、鮮明に飛び込んで来ました。それは、イエス様とペテロとの会話の中の御言葉です。イエス様は、「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。」(マタイ 16:18) と語られました。

この「わたしの教会」という言葉が、私の心を強く打ちました。教会はすべて、イエス様の教会です。イエス様ご自身のものです。イエス様ご自身がそこに教会を開所され、ご自身が建て上げられて行かれるものです。『あつ、私はこれまで私(田崎敏明)の教会を建てようとしていた…』と情けない猛省をさせられたのです。そうです、チャペル延岡は、イエス様のものです！ 私は、もう下手な口出しはしまいと心に決めたのです。教会のことは、もう全ての事柄を、イエス様ご自身に、お委ねしようと決心したのです。これでもう、“教会”のことをダシにして、私が祈りの生活に入らないことの言い訳をすることは出来なくなったのです。

すると、私の心に、また一つの御言葉が飛び込んで来ました。それは、もう何度も何度も読んでいた御言葉でした。それは、「たたきなさい。そうすれば開かれます」(マタイ 7:7) です。たたくとは、神の御国の戸をたたき、まさに祈りです。たたくと、開くのです！ たたいても、戸が閉じたままということがないのです！

たたいても、留守ということがないのです！ たたいても、鍵が閉まっているということがないのです！ たたいても、居留守ということがないのです！

この御言葉に励まされ、押し出され、私は、日に3時間以上、イエス様の前に跪き祈る生活に入ることが出来たのです！！自分の力で祈ることが出来るようになった訳ではありません。訓練した訳でもありません。全ては御言葉と、恵みと憐れみによることです。私は、今日も、御国の戸を、たたくのです。そして、たたくと開くのです！

## ②とにかく跪こう

現代人にとっては、そこに座るといふ作業は、けっこう大変な作業かもしれませんね。皆、忙しいのです。それはクリスチャンも同じかもしれません。

- ・教会奉仕が忙しい、
- ・インターネットや携帯電話が忙しい、
- ・付き合いが忙しい…等々

しかし、祈りは、とにかくまずそこに跪くことから始まります。自分の奥まった部屋(マタイ 6:6)に座り、あるいは、教会の礼拝堂に座り、とにかく座ることから始まります。

祈りについてあれこれと考えるのではなく、祈りについての本を読むのでもなく、何度も『もっとお祈りしなくちゃ』と、ため息をつくのでもなく、まず、とにかく跪きましょう。

そして跪いたら、もう何があっても、自分の決めた時間の間、立たないと決心することです。(祈りの中で、主に触れられ、歓喜が溢れ、思わず立ち上がってしまう時は例外ですが！)

それは人間的な、修業的な行いでしょうか？いいえ、それこそ神様第一の、献身の行いだと思います。その時間を、ただイエス様にのみ捧げるのです。

## ③祈ろう

今、日本のキリスト教界では、ワーシップやゴスペルなど賛美が、一つのムーブメントになっています。特

---

に若い人達の賛美には感動し、励まされることがあります。彼らは、素晴らしい演奏もします。最近の若い奴らは……ほんと、凄いです！

そして、それと同じくらいに、祈りのムーブメントも起きたら、もっと凄と思います。この日本に凄いことが起きるだろうなあと思います。

賛美は、人の魂を揺り動かし、

祈りは、この天地を揺り動かします！

リバイバルは、どこかの教会からとか、何かの宣教方法からとか、どこかの地域からとかいうのではなく、リバイバルはクリスチャンの祈りから起ると信じます。ハレルヤ！

## 主への祈りはいのちの務め！

神の家族キリスト教会  
代表役員 水野 明廣



主の日が近いので、世界中の至る所で聖霊の雨が注がれ、聖霊による主のリバイバルが報告されてきて、モスレムの回教国の国々や、

ヒンズー教国の中でも、主イエス・キリストの福音が驚くほど広がり、

イエス様を救い主として信じる人々が増し加えられています。また、

さらに仏教国のスリランカやタイからも伝わってきています。そして、これらの国々の中で聖霊の激しい流れを受けとめている群れの共通点は、どこもかしこも熱烈な祈り（特にとりなしの祈り）がますます盛んになっている事です。中でも、もう既に24時間、365日たゆむことなく主への賛美ととりなしの祈りを続けているインドネシアでは驚くべき主の御業が起こっていて、キリストにつく者を激しく迫害してきた人々でさえ、使徒行伝の出来事のように、イエス様に会って救われてきている事が、ここ最近、たびたび聞かされております。なんと良い時代に生かされてきている事でしょう。私たちはこの日本でも、今まで見た事もないほどに熱い祈りをささげる聖徒たちが増えてきているために、尚一層の主への祈りが増し加えられて、私たち神の家族キリスト教会もそれぞれの町と地域において祈りの見張り番の役割を果たさせていただきたいと熱烈に願い、ともに祈りの手を挙げて聖霊の風に動かされて主の御用に進ませていただきたいと求め、主の御業とするしの現れに期待させられております。特に、今年開催される予定の“エンパワード21 京都・日本大会”（10月11～14日）が、文字通り日本が変わる転機になりますようにとりなし祈らせていただきます。

「日本が変わる」原動力は断食ととりなし祈りにあるので、長年日本の首都でもあった京都を舞台にした世界のキリスト教会が注目する大会の成功のために、日本があらゆるこの世の君の勢力に打ち勝つためにも、今年こそ祈りの救国戦士にならせていただきたいと切望しています。もう既に関西圏の先生方には、この国が変わるために、もう後はないという意気込みと献身をもって、ギデオンの300人の勇士に習う祈りの戦士を募り、度々断食と祈りを実行していかれるとも伺っておりますので、私たちの群れにおいても祈りの決起大会を各教会で展開し、更には、互いにこの時代のダニエルに習

おう、エステルに習おう、を合言葉に、各々のクリスチャンが救われて欲しいと願っている名前をそれぞれが5名以上明記し、各教会に報告し、各教会で具体的に魂の救いのリバイバルのためにも、救いの決心が明確にできて、洗礼を受けて礼拝者となるように祈りを積み重ねていきたいと願っています。祈りから聖霊が働かれて、教会が生まれて世界宣教へと展開した教会の流れを確かに継承して、主イエス・キリストの再臨に備えている、聖霊の油を絶やさぬ聖徒として、主の栄光の現れを受け継ぎたいので、ますますとりなしの祈りを励まして実行する、祈りの家である教会として主に仕えさせていただきたいのです。



▲ 神の家族キリスト教会 新年聖会

これからの魂の収穫のための働きは・・・

1. ほとんどが東海地区に群がる神の家族の中に祈りの塔の運動が浸透し、祈りが絶え間なく続けられる事を目標にして、さらに祈りの務めをする祈りの戦士募集を若者から年長者まで広げて、祈りの時間を共有し拡大させる。
2. 全ての家の教会で、祈りをする時間を大切に守り、増やす。

私たち主イエス様に召された者たちにとっては、とりなしの祈りの務めこそ最高の働きであり、最善の仕事でもあり、もっとも有意義な時間の過ごし方・・・という大切な真理を実行し、守り育てるなら、必ず聖霊が下られ臨まれた初代教会をこれから私たちが受け継がせていただけると信じています。

## 革命的祈りへ



日本ペンテコステ教団  
代表役員 榮 義之

教団と各教会それぞれに、牧会伝道のビジョンを掲げて、早天、徹夜、連鎖、断食祈祷、聖霊による異言の祈りに取り組んでします。2006年から祈りが革命的になり、奇跡とも思われるような御業を拝しているので、個人的な経験を書きます。

歯医者で治療が終わると、「祈っても答えられないのはなぜですか」と質問され、ためらわず「疑うからです。」と答えました。すると「疑わないで祈るにはどうしたらよいか」と尋ねられ、答えをためらっていると、知恵のことばが与えられました。「イエス・キリストのお名前によって祈ります、アーメン。」と祈ったら、疑いが来る前に「ありがとうございます。答えられました。感謝します。」と言えよと答えました。

その日以来、どんな祈りをしていても必ず、ありがとうございます。与えられました。感謝しますとの

祈りになり、教会も聖書学院も教会員も奇跡的なアドナイ・イルエを体験しております。特に昨年7月に運転中に脳梗塞になり交通事故で救急病院に運ばれ、さらに小脳梗塞にも襲われ入院することになりました。「その打たれた傷によりいやされた」とのみことばどおりに祈り、アーメン。ありがとうございます。癒されました。感謝しますとの入院でしたが、一ヶ月で完全に癒され、「天国から追いつ返された牧師」として、十字架と復活の福音を伝え続けています。祈りも革命的に変化し、どんな祈りをしても確信を持って祈りの答えを与えられ、ありがとうございます。祈りは答えられました。感謝しますと、主の御名を賛美しつつの感謝の前進を続けております。

ありがとうございます。日本は救われ、リバイバルがやってきました。感謝します。全国の教会の祈りの革命的な変化を期待しつつの2013年です。

何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるとのこと、これこそ神に対する私たちの確信です。私たちの願う事を神が聞いてくださると知れば、神に願ったその事は、すでにかなえられたと知るので。

(第一ヨハネ5：14-15)



▲ 生駒聖書学院 2013年度 卒業式

## 祈りの火を燃やし続けるために



日本ネクスト・タウンズ・ミッション  
代表 岩井 繁信

イエス様は、イザヤの預言を引用して、『わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。』と書いてあるではありませんか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしたのです。(マルコ11：17)と嘆かれました。イエス様は教会を一度も「賛美の家」、あるいは「交わりの家」と呼ばれたことはありませんでした。ただ、「祈りの家」とだけ呼ばれました。主の宮としての教会が祈りの家となることほど大切なことはないでしょう。

現在ネクスト・タウンズ・ミッションには東京から沖縄まで全国に30余りの教会、伝道所及び宣教団体(ラブ・アジアミッション)が所属しています。これまでのネクスト・タウンズ・ミッションの歩みを振り返りますと、教団の発足当時、熱心な祈りの中で伝道のビジョンに燃やされた宣教師、牧師たちにより開拓伝道の働きがなされ、次々と各地に教会が開設されていきました。そして、救われた者たちは毎年、春と夏にもたれていた合同の聖会に集い、集会ごとに時間を忘れて熱心に祈り、その熱い祈りの中で聖霊のバプテスマを受け、また新たに聖霊に満たされ、来た時とは全く変えられて、それぞれの教会で熱く燃えて主に仕える者とされ送り出されていました。今、もう一度かつてのような祈りの火に燃やされる必要を痛感しています。

これまでの祈りの取り組みの具体的な例としては、1993年には教団の中心的なひとつの教会が、それまでグループで聖会やキャンプ場の場所として使用していた施設を借り受け大幅に改造、個人祈祷室や宿泊管理棟も新築し、「アガペー祈祷院」としてオープンしました。そこでは定期的に祈祷聖会がもたれ、また教会単位や個人での祈祷の場として大いに用いられましたが、種々の事情から2009年に閉鎖となりました。

また、岡山県の教会では、教会専用の祈祷院として岡山市北部にある古民家を買入れ、改修工事した上で、2008年に「プレイハウス」として用いています。そこへは毎月、何度か定期的に教会から各部の兄弟姉妹が交わりと祈りをかねて出かけます。静かな田園地帯の中にある「プレイハウス」での祈りこみと交わりを通して、各人が霊に燃やされるとともにキリストのからだの一体感が強められ、大きな恵みとなっています。

また中部地区のいくつかの教会でも、同じ教団に属する数人の牧師に加えて、他の交わりのある牧師も一緒になって、毎月定期的に祈り会を行い地域の宣教の前進を祈っています。さらに、若い兄弟姉妹たちが中心になってもたれる賛美と祈りの合同集會を年に3回ほど行い互いに励まし合っています。

さらに、本年6月に初めての試みですが韓国の祈祷院に、二十数名の牧師、牧師夫人で「祈祷ツアー」をすることとなっています。訪問を予定しているインチョン空港近くの街の郊外にある祈祷院には、筆者も何度か行きましたが、平日でも朝昼夜と持たれる集會に近くの町から続々と大勢の人たちがやって来ます。その姿を見るにつけ、今なお韓国の教会に燃え続ける祈りの火の源の一つが実に祈祷院にあることを思わされます。私たちがさらに力強く主の働きをなす者とされるために、今回の「祈祷ツアー」を通して、祈りの霊を受け、聖霊に燃やされて主に仕えるしもべとされたいと願っています。



▲ 教団修養会

## 「祈り」



日本チャーチオブゴッド教団  
監督 八束 選也

当教団では、他のすべての教団と同様、ペンテコステの群れとして、どのような時であっても「聖霊に導かれた祈り」が絶えず強調されてきました。前監督の八束和心牧師は常に、「教会は膝で前進する。」と信徒に祈ることを教え、自ら祈りをもって教団を導きました。また、日本宣教に多大な影響を与えた一人である、米国教団本部全世界宣教

本部長のロベル・キャリア師は、10年程前の本部教会献堂の時、この教会が「建物」や「人数」、「音楽」、「その他」の何によって有名になるよりも、「祈り」で有名な教会になってほしいとチャレンジをくださいました。それに答えようと各教会では、多くの祈りが積み重ねられてきました。

特に教団として心がけてきたのは、祈祷項目を定めて各教会でその同じ項目を祈る事です。1月と5月の教団聖会、3月と8月の学生キャンプ、いつも祈祷項目が配布され、各教会で心を合わせて祈るのです。マタイ18:19でも、イエス様は「あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。」とされているように、皆が合意して祈る祈りは大切だと信じています。

私たちの教団では多くの人が大声で祈ります。それは、「キリストは、人としてこの世におられたとき、自分を死から救うことのできる方に向かって、大きな叫び声と涙とをもって祈りと願いをささげ…。」(ヘブル5:7)とあるように、聖書的な大声の祈りが慣習となっています。それゆえに、クラシカルペンテコステの流れではどこでもそうでしょうが、当教団でも声が囁れることは祈りの証しとされてきました。しかし、「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。」(エペソ6:18)と書かれてあるように、新約聖書の数カ所には「祈り」と「願い」が区別して書かれてあります。私たちは、大声で祈祷課題を祈り、主に願い求めるだけでなく、本当に「祈り」を学ばなければならないと思われているのです。

旧約聖書、また新約聖書を問わず、神の器たちは皆祈りました。その祈りの本質を見る時に、それは神への願い事の告白だけでなく神の御心を知ることでした。モーセは、地上でもっとも謙遜な人と呼ばれました。そのルーツは、「主は、人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた」(出エジプト記33:11)にあるように、神から聞くことでした。私たちの祈りの本質も神の御声を聞くことにあることを学ぶことができます。全能の父なる神様との対話と交わりを通して一方的に私たちが願いを述べるだけではなく、主が語りかけてくださる御心を知ることで、そして、その御心を知るようにと、イエス・キリストの十字架の血によって神の子どもとされ、御子の御霊によって「アバ、父」と呼び、父なる神の御心に近づくよう招かれていることを感謝します。

ここ数年、若者たちを整えるために行われている教団の学生キャンプでも、新しい世代に祈りを教える先生方をお招きしています。新宿シャローム教会の富田慎悟先生、金沢キリスト教会の船津信成先生、今年の春は、草加神召キリスト教会の天野弘昌先生。皆、主を慕い求め、主に聞く祈りの器たちです。当教団は今までの大声で祈る嘆願の祈りに加え、何より主の御心を慕い求める祈りを持って、主の御心を行う群れとさせていただきたいと願います。

「だから、こう祈りなさい。

『天にいます私たちの父よ。

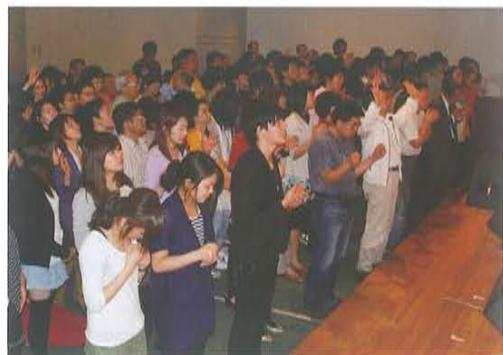
御名があがめられますように。

御国が来ますように。

みこころが天で行われるように地でも

行われますように。』

マタイ6:9-10」



# 日本ペンテコステ協議会総会雑感

日本ペンテコステ協議会  
書記 永井信義



2012年11月29日(木)午後0時より、9教団から17名が出席して、日本ペンテコステ協議会総会が、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団理事室を会場に開催されました。

昼食と交わりの後、細井眞議長によりデボーションの時間が導かれ、使徒の働き8章8節をテキストに語られました。神は個人だけでなく、集団も見つめられ、町を喜びで満たすことをされること、また、「アジアの時代」と言われるが、それは日本の時でもあり、日本各地のそれぞれの町が大きな喜びで満たされることを期待しようとの勧めがありました。出席者の紹介、前回の議事録、2012年度の会計報告の承認後、次の議題が取り上げられました。まず、日本ペンテコステ協議会役員の変更が行われ、以下の人事が決定されました。

議長：細井眞師 (JAG) / 副議長：中見透師 (TPKF)、永井信義師 (福音の群)  
書記：佐藤成紀師 (フォースクエア) / 会計：山口和正師 (JOB)

続けて2013年度の活動計画が確認されました。

## ■ 日本ペンテコステ協議会研修会

日時：2013年5月23日(木) 11:00～16:00

場所：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団神学校チャペル

会費：一人2,000円

プログラム：11:00～12:00 礼拝 説教：増井義明師

12:00～13:30 昼食

13:30～16:00 講演 テーマ：「アジアの時代に祈る」 講師：村上好伸師、富田慎悟師

## ■ 2013年度日本ペンテコステ協議会総会

日時：2013年11月28日(木) 12:00～16:00

場所：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団理事室

次に、JPC ニュース第十号は日本ペンテコステ教団によって担当され、テーマは「祈る」、2013年5月23日(木)に行なわれる研修会において配布されることが確認されました。(なお、第十一号はイエス・キリスト福音の群が担当です。)

また、第23回世界ペンテコステ大会が2013年8月27日(火)～30日(金)にマレーシア・クアラルンプール(カルバリー・チャーチ)で開催されること、できるだけ多くの参加者をJPC加盟教団、グループから募ることを確認されました。ぜひとも多くの方々にご参加いただければと思います。

さらに2013年度予算が取り上げられ、特に日本ペンテコステ・ネットワーク(JPN)設立のために協力金(JPC負担金相当)を要請することが提案されるなど、活発な話し合いの時間が持たれました。

エンパワード21全日本大会が2013年10月11～14日に京都国際会議場にて開催されることなどの案内や各教団からの近況報告の後、祈りの中で総会が閉じられました。

# 日本ペンテコステ協議会規約

- 1) 本会は、名称を『日本ペンテコステ協議会』（Japan Pentecostal Council 略称 JPC）とする。
- 2) 事務局  
本協議会の事務局を日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部に置く。
- 3) 目的  
本協議会の目的は、日本におけるペンテコステ信仰の健全な成長と発展を促進するために、ペンテコステの教団及び教団に準ずるグループの指導者・教職者間における交流を深め、情報交換及び相互理解を図り、教職研修を行うことにある。
- 4) 信仰宣言  
本協議会の構成員は、以下の信仰宣言を告白するものとする。
  1. わたしたちは、聖書が靈感された、唯一の誤りのない権威ある神の言葉であることを信じる。
  2. わたしたちは、父と子と聖霊の三位において永遠に存在される唯一の神を信じる。
  3. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストの神性、処女降誕、罪のない生涯、奇跡、十字架の血による代償的贖罪的犠牲、肉体をもつての復活、父の右の座への高举、また、力と栄光の中での再臨を信じる。
  4. わたしたちは、失われた罪人の救いのためには、みことばと聖霊による新生が不可欠であると信じる。
  5. わたしたちは、異言の証拠を伴う聖霊のバプテスマを信じる。
  6. わたしたちは、聖霊の今日的働きによる肉体の癒し、および種々の聖霊の賜物を信じる。
  7. わたしたちは、聖霊の内在によって清い敬虔な生活が可能となることを信じる。
  8. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストにおける信者の霊的一致を信じる。
  9. わたしたちは、聖徒の復活、失われた者の審判、新天新地を信じる。
- 5) 活動  
定期的に会議を開催し、各教団及びグループの指導者・教職者間の交流、意見・情報の交換、研修その他必要な活動を行う。広報誌と機関誌を発行する。
- 6) 総会  
本協議会は最高議決機関として総会を置く。総会は、加盟教団にそれぞれの教会数に応じて割り当てられた数の代議員によって構成する。

50 教会以下	代議員 1 名
51 ～ 100 教会	代議員 2 名
101 教会以上	代議員 3 名
- 7) 役員  
本協議会に議長、副議長、書記、会計を置き、その任期を 3 年とする。役員会は議長によって召集され、定期的に開催する。
- 8) 経費  
本協議会の経費は、加入団体の負担とする。
- 9) 附則  
本規約は、1998 年 5 月 29 日より実施する。この規約の変更は総会の議決を経て実施する。また、2003 年 3 月 25 日に改正された。

# 日本ペンテコステ協議会 2012 年度会計報告

2011年11月1日～2012年10月31日

収入の部		支出の部		備考
項目	金額	項目	金額	
負担金	470,000	総会	23,245	
預金利子	99	役員会	240,190	7回開催
研修会会費	103,000	研修会	151,452	謝礼・昼食・コピー他
		J P N 関係費	281,119	準備会 3回開催
		P W F 負担金	40,335	\$ 500
		JPC ニュース	99,000	2011 追加,2012 訂正を含む 2 回分
		新聞広告	65,700	2011 クリスマス(クリスチャン新聞) 2012 ペンテコステ(リバイバルジャパン)
		事務諸費	27,695	チャーチオブゴッドお祝含む
		予備費		
小計	573,099	小計	928,736	
前年度繰越金	1,035,352	次年度繰越金	679,715	
合計	1,608,451	合計	1,608,451	

## [ 負担金明細 ]

神の家族キリスト教会	2012・2013年	40,000円
単立ペンテコステ教会フェロシップ	2012年	40,000円
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団	2012年	150,000円
シオン宣教団	2012年	30,000円
日本ネクスト・タウンズ・ミッション	2012年	30,000円
日本チャーチオブゴッド教団	2012年	50,000円
日本オープンバイブル教団	2012・2013年	60,000円
日本ペンテコステ教団	2012年	30,000円
日本フォースクエア福音教団	2012年	30,000円
イエス・キリスト福音の群	2012年	10,000円

会計 船津 行雄

## 日本ペンテコステ協議会 加盟団体一覧

(各教団代表は、2013年5月現在)

- 
- **日本フォースクエア福音教団** 総 理 増井 義明  
連絡先 ホープチャペル所沢 〒 359-1125 埼玉県所沢市南住吉 10-8  
TEL 04-2923-1858 FAX 042-922-7716
- 
- **イエス・キリスト福音の群** 代 表 永井 信義  
連絡先 東北中央教会 〒 981-3604 宮城県黒川郡大衡村ゴスペルタウン  
TEL 022-345-2991 FAX 022-345-2992
- 
- **日本オープンバイブル教団** 代 表 菅原 亘  
連絡先 神戸キリスト栄光教会 〒 653-0845 兵庫県神戸市長田区戸崎通 3-9-12  
TEL 078-612-5511 FAX 078-621-5513
- 
- **日本ネクスト・タウンズ・ミッション** 代 表 岩井 繁信  
連絡先 鈴鹿キリスト福音教会 513-0035 鈴鹿市矢橋町 471-2  
TEL 0593-83-5145
- 
- **単立ペンテコステ教会フェロースHIP** 代 表 中見 透  
連絡先 御殿場純福音教会 〒 412-0024 静岡県御殿場市東山 711-24  
TEL 0550-82-2872 FAX 0550-82-7233
- 
- **シオン宣教団** 監 督 松本 光弘  
連絡先 松江福音教会 〒 690-0001 島根県松江市東朝日町 210-1  
TEL 082-553-0291 FAX 082-553-0291
- 
- **日本チャーチオブゴッド教団** 監 督 八束 選也  
連絡先 東京ライトハウスチャーチ 〒 146-0093 東京都大田区矢口 2-1-18  
TEL 03-3758-1625 FAX 03-3758-1647
- 
- **神の家族キリスト教会** 代 表 水野 明廣  
連絡先 クリスチャンライフ 〒 464-0094 愛知県名古屋市長千種区赤坂町 4-64  
TEL 052-721-7831 FAX 052-721-7625
- 
- **日本ペンテコステ教団** 代 表 榮 義之  
連絡先 生駒聖書学院 〒 630-0243 奈良県生駒市俵口町 951  
TEL&FAX 0743-74-7622
- 
- **日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団** 理事長 細井 眞  
連絡先 日本 AOG 教団本部 〒 170-0003 東京都豊島区駒込 3-15-20  
TEL 03-3918-5935 FAX 03-3918-0474
-



**JPC** NEWS  
VOL.10

Japan Pentecostal Council